福島県中学校長会広報

・会長挨拶「令和４年度を振り返って」…… １
・学校教育の今日的課題「新型コロナウイルス感染防止とICT機器の利活用」… ２
・令和４年度県中学校長会の歩みと成果 … ３
・専門部会活動の概要（行財政部会・研究部会・進路指導部会・生徒指導部会・広報部会）… ４～５
・第73回全日中研究協議会北海道（札幌）大会の概要 … ６
・第72回東北地区中研究協議会宮城大会の概要 … ６
・第50回福島県研究協議会県北大会の概要 … ６
・小・中学校合同理事会報告、中学校理事会報告 … ６～７
・令和５年度県中学校長会主要行事予定 … ７
・令和5年度全日中研究協議会大分大会概要 … ７
・令和5年度東北地区中研究協議会福島大会概要 … ７
・支会情報と特色ある経営（福島・岩瀬・耶麻・双葉）… ８～１１
・随想「出会いに感謝」…… １２

令和４年度を振り返って

福島県中学校長会会長　渡　部　光　毅
（福島市立福島第三中学校）

令和４年度も残すところあとわずかとなりました。コロナ禍が続く状況の中、本会の理事会や各部会の運営にご協力を賜り、誠にありがとうございました。特に今年度は感染状況を注視し、参集型を基本とした会議を行い、ほぼ計画通りに実施することができました。重ねて御礼申し上げます。

私はこの１年間、本会の会長職を拝命し、県内外の様々な会に参加させていただきました。その中で特に印象に残っている二つのことについて紹介したいと思います。

一つ目は、「イランカラプテ　北の大地から　新たな学びを紡ぎ　その先」というスローガンのもと開催された第73回全日本中学校長会研究協議会北海道（札幌）大会です。挨拶の中で大会実行委員長の野﨑　均会長からお話しがありました。

> スローガンに「紡ぎ」とあるように、大会全体を一枚の「織物」に例えています。織物は縦方向に編み込む強靱な経糸と横方向に美しく織りなす緯糸が互いに補完し合って完成します。実行委員会や運営委員会が経糸となり、参加者が緯糸となって議論を深め合い、紡ぎ上げた織物（成果）を「その先」の大分大会に繋げたい。

イランカラプテとはアイヌ語で「心の触れ合い」を意味するそうです。オンライン開催となり現地での情報交流は叶いませんでしたが、大会期間中は随所に実行委員による心配りが感じられました。そして何よりも大会全体を通して素晴らしい織物が完成し、その先である次期開催地の大分県に引き継がれたことを実感できた記憶に残る大会となりました。

もう一つは、伊達市立梁川中学校で行われた第50回県中学校長会研究協議会県北大会です。本大会は隔年で開催されておりますが、一昨年に予定していた第48回会津大会が中止となり、何としても開催したいという思いで協議を重ねた結果、６月に開催された第72回東北地区中学校長会研究協議会宮城大会を参考にして大会史上初となるハイブリッド型を採用しました。当日の午前中は開会行事と記念講演が行われましたが、30年ぶりの強い寒気の影響を受け、会場内は気温が10度未満という過酷な環境でした。オンラインで参加された先生方は暖かな場所での視聴だったと思いますが、現地参加の私たちは寒さに震えながらの研修であったことも今はよき思い出です。

また、午後の研究協議では８つの分科会において質疑や意見交換を行いました。特に、ブレイクアウトルーム機能を活用したオンライン参加者によるグループ協議では、支会を越えて先生方が熱の入った意見交換を行う姿が各分科会で多数見られ、改めて本研究協議会を開催する意義を感じることができました。コロナ禍と言われるこのような時期だからこそ、オンラインによる参加者を含め県内全ての中学校長が一堂に会する機会をもつことは今後さらに重要になるものと考えます。本大会の開催にあたり準備・運営等にご尽力をいただきました実行委員長の阿部　央校長先生をはじめ、役員・委員の皆様、伊達・福島・安達支会の校長先生方に対しまして、改めて感謝を申し上げます。

最後になりますが、本会を支えていただいている副会長、理事、支会長の皆様をはじめ会員の皆様、各部会長、幹事、事務局員の皆様のこの一年間のご協力に対して重ねて感謝申し上げますとともに、本年度末をもってご退職される校長先生方のご功績に心からの敬意を表します。誠にありがとうございました。

学校教育の今日的課題

―新型コロナウイルス感染防止とＩＣＴ機器の利活用―

福島県中学校長会副会長　芳賀　俊幸
（郡山市立郡山第六中学校）

新型コロナウイルス感染防止のための対策を継続して早３年！実顔をわからずに卒業、転任した生徒や職員がいます。着任して３年間、全校生が一度も一堂に会していません。PTA総会や学年懇談会は紙面開催、授業参観は２日間で出席番号による時間指定など、３年前には考えや想像もしない形で実施しています。

今後、どのような対策を継続して学校教育を進めていくかは、感染状況を見極め、国や県などの方針に基づいてということになるのでしょうか。社会全体が前へ、前への雰囲気になっている中、教育関係だけが急ブレーキという状況にならないようにしていきたいと思っていますが、感染リスクが高い活動には踏み切ることができない自分がいます。とりわけ各年度の２学期以降は、３年生の進路に影響が出ないよう兄弟姉妹をはじめ家族の感染防止についてご家庭の協力を得て歩みを進めています。

部活動等における各大会などでは、感染による出場辞退とならないよう対策を実践していますが、それでも残念ながら出場が叶わず涙を流した生徒がいました。成果を発揮することができないことほど悔しいことはありません。記憶の１ページが欠落したまま、生きていくことは私達には想像できないことです。だからこそ、そのような生徒にはなお一層温かいケアが必要でしょう。職員には、各大会等で勝敗や順位がつくことにより、生徒を賞賛したり鼓舞したりすることと同じくらい、涙をのんだ生徒への心からの言葉かけを指示しているところです。

また、不登校傾向の生徒が増えており、頭を痛めています。コロナ禍における生活習慣の乱れが、かぜ症状等による出席停止措置と相まって、登校しないことのハードルを押し下げているように思えます。学校と自宅との往復だけという生活の期間もあり、また学校の楽しさを感じ取る機会(学校行事や部活動など)が減少してしまったことなども不登校傾向生徒が増加している要因の一つと考えています。さらには、三密回避などの新型コロナウイルス感染防止対策によるコミュニケーション不足が、影響している可能性もあるでしょうか。

ところで、タブレットなどのＩＣＴ機器が学校に急速に配備され、授業や不登校傾向生徒の自宅学習に活用しています。授業では、映像や写真を手元で確認して視覚的に理解を深められたり、ロイロノートによる意見交換をリアルタイムで実施できたりしています。不登校傾向や感染防止による出席停止の生徒へは、授業をライブ配信して学習機会の確保に努めています。教員のＩＣＴ機器活用力が徐々に高まり、教員間の差が少しずつ小さくなってきています。

しかしながら、ＩＣＴ機器とりわけスマートフォンやＰＣの家庭での使い方には、警鐘を鳴らさざるを得ない状況が続いています。生徒指導上の種々の課題は、ほとんどすべてがＳＮＳに端を発しています。深夜まであるいは明け方までゲームに興じていたり、複数人でメールのやり取りを行ったりし、課金や友人関係のトラブル（いじめ事案）となっています。短文や単語、絵文字だけのやり取りを続けることから誤解が生じ、その誤解が瞬時に広がることでさらに大きな誤解、意味の取り違いになってしまいます。

家庭でのＩＣＴ機器は、保護者の監督の下で活用するよう学校だより等で依頼していますが、徹底できない状況が続いています。警察による情報モラル教室も開催して、ＩＣＴ機器の正しい利活用を指導し、健康障害や法令違反などを“水際”で回避していくしかない状況です。ＩＣＴ機器の望ましい使用により、学力やコミュニケーション力の向上につなげていきたいと考えています。

今後も、校長会の皆様とともに一つ一つ課題を解決していければと思っています。

令和４年度「中学校長会の歩みと成果」

福島県中学校長会事務局長　福地　裕之
（福島市立福島第四中学校）

「夢」
福島に生まれて、
福島に育って、
福島で働いて、
福島で結婚して、
福島で子どもを産んで、
福島で子どもを育てて、
福島で孫を見て、
福島でひ孫を見て、
福島で最期を過ごす。
それが私の夢なのです。

平成23年３月の東日本大震災・原子力発電所事故のわずか５か月後に行われた「第35回全国高等学校総合文化祭」において本県の高校生から発せられたこの言葉には、多くの福島県民が勇気付けられました。

福島県中学校長会においても、「学校は、復興のシンボルであり、復興の活力源である」こと、そして、「学校は、命と健康が輝く場所である」ことを肝に銘じ、学校経営の最高責任者である校長がリーダーシップを発揮し、新たな時代を切り拓く、子どもたちを育てよう」を合言葉に私たちの英知を結集して取り組んできました。

これは、全日本中学校長会の機関誌「中学校」12月号Ｐ40「校長会だより」―福島県―の冒頭部分です。震災当時の中学生は成人となり、中には子どもを産んで、育てているかもしれません。この詩「夢」に描かれていることが、現実になりつつあるのです。私たちは、改めて、校長としての自覚と責務を再認識しなくてはならないと思っています。「事故がある時、校長は、学校は何をすべきか」「しなやかに、たくましく、そして凛とした生き方の範でありたい」（県中学校長会発行『ふくしまを生きる』『凛と生きる』より）の言葉を忘れてはいけないのです。

令和４年度の中学校長会ですが、Withコロナの中での校長会という、これまでにはない形での運営になりました。基本的には感染予防対策を行った上で、Face to Faceを大切にし、ひざを交えて話し合う機会を確保する一年としました。

４月20日㈬、第72回福島県中学校長会総会を開催しました。渡部光毅会長のもと、新体制による今年度の活動がスタートしました。「学校経営力の向上と十分な情報交換を通して、様々な教育課題の解決に努めること」等を活動方針として各専門部会の活動を中心に各支会で連携・協力しながら、組織的な取組を推進してきました。各専門部会の主な事業内容（数字は回数）です。

行 財 政 部 会：小中合同幹事会④、中幹事会②
　　小中合同部会長会③
研　究　部　会：幹事会④、部会長会③
進路指導部会：幹事会⑤、部会長会③
生徒指導部会：幹事会④、部会長会③
広　報　部　会：幹事会②

以上の他に、事務局会⑤、理事会⑤を開催し、各部会と各支会中学校長会が一体となった活動を推進するとともに、教育改革に伴う諸課題に関する情報収集と適切かつ迅速な対応に当たっていただいているところです。

９月12日㈪には、教育予算・教育人事に関する要望活動を実施しました。県議会の各派、県人事委員会、県市長会、県町村会を訪問し、会員の声を直接伝えるとともに、重点事項については、特に丁寧に説明してきました。

さらに、10月７日㈮には、第50回福島県中学校長会研究協議会県北大会を開催しました。現地参加とWeb参加のハイブリッド開催としました。講演会では、「感染予防対策の徹底と、コロナを言い訳にしない教育」と題し、第46代会長で、現伊達市教育委員会教育長菅野善昌様よりご講演をいただき、学校の役割や舵取り役としての校長の在り方について、想いを共有しました。午後の研究協議会では、各支部の研究の成果を発表し、協議を通して、さらに深め合うことができました。

終わりに、さまざまな教育課題に対応している中での各種アンケートの回答や報告書の作成にご協力いただきました。今後とも、福島県一人一人の校長先生方のために、たくさんの情報を共有し、英知を結集して推進していきたいと考えています。これまでの成果に改めて感謝申し上げます。

専門部会活動の概要

● 行財政部会 ●

県小・中校長会の活動方針を踏まえ、教育行政上の課題解決のために調査研究や要望活動を行い、組織的・継続的な対策活動を推進しました。

１　活動の重点

○　多様な教育活動に対応するための教育条件の整備・充実
○　教職員の待遇改善と福利厚生の向上
○　当面する重要課題の調査研究と課題解決

２　調査研究活動

(1)　令和４年度「教職員人事の反省」
(2)　調　査　Ⅰ：教職員配置等に関する調査
(3)　調　査　Ⅲ：教育施策の実施状況に関する調査
(4)　特別調査：大震災・原子力災害や感染症の影響に関する調査

３　要望活動

渡部光毅県中学校長会長、横山貴英県小学校長会長を中心に要望団を結成し、９月12日に要望活動を行いました。

(1)　面談（要望内容説明）
　①　福島県人事委員会
　②　県議会議員政党等
(2)　要望書届け
　①　福島県市長会、福島県町村会
　②　福島県町村議会議長会、市議会議長会
　③　市町村教育委員会連絡協議会、都市教育長協議会、町村教育長協議会の代表機関等
(3)　主な要望事項
　①　復興加配はじめ教職員の加配について
　②　ＳＣ、ＳＳＷの拡充・育成について
　③　特別支援教育の理念に基づく教育施策の拡充について
　④　新型コロナ感染症対策の整備について

４　教育懇談等

関係機関と懇談し現状説明等を行いました。

(1)　福島県公立学校退職校長会（７月４日実施）
(2)　福島県教育庁関係者との懇談会
　（８月17日中止）

（行財政部会長　福地　淳一）

● 研　究　部　会 ●

１　共通理解に基づく共同研究の推進

今年度からの研究主題「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」を指標とした８小主題について、「研究の手引き」を活用しながら、各支会・各学校の実態に即して研究を推進しました。

第50回福島県中学校長会研究協議会県北大会を伊達市立梁川中学校を会場にハイブリッド型で開催し、８小主題について研究の深化を図るとともに、その成果を共有しました。

２　研究集録の編集及び刊行

研究主題に基づく調査研究の充実、資料や情報の提供を目的とし、各支会における研究の成果を収めた「研究集録」を刊行し、全会員に配付する中でその成果を共有することができました。

３　全日中、東北地区中と連携した研究の深化

第72回東北地区中学校長会研究協議会宮城大会及び第73回全日本中学校長会研究協議会北海道（札幌）大会は、ハイブリッド型やオンラインでの開催となりましたが、大会誌の発行により、情報収集は例年通り行うことができました。

また、東北地区中学校長会研究協議会宮城大会では、第３分科会において田村支会が道徳教育に関する研究の成果についての発表を行い、有意義な研究協議とすることができました。

４　原発事故に関わり、学校教育が向き合った課題、対応等の発信

震災後12年を経過した福島の現状を記録し累積するために、研究集録の中に、「ふくしまの今」～双葉支会の現状～を継続して掲載するとともに、福島県の課題でもある「放射線教育の現状」についても掲載し、全会員で共有しました。

（研究部会長　鴫原　俊洋）

● 進路指導部会 ●

１　「社会を生き抜く力」を育成するキャリア教育の視点にたった進路指導の積極的な推進

各支会においては、地域の実情に即しながら、キャリア教育の視点にたち、校長先生方の強いリーダーシップのもとで、進路指導を推進してきました。その情報を部会長会で交換し、進路指導の体制等の改善・充実に役立てました。

また、「中学生活と進路」の編集に際しては図版や統計資料等を最新のものにし、学習活動に役立つよう工夫しました。中学校進路指導・キャリア教育代表者研修会での情報等も、次年度以降の編集に生かしていきます。

２　高等学校入学者選抜方法等の改善に向けた高等学校や関係機関との連携

各支会からの情報と「進路指導に関する調査」の集計をもとに、県立高等学校入学者選抜事務調整会議において、中学校の立場から提言しました。その結果、特別支援学校への出願先変更の改善や調査書の記載内容に一部箇条書きが認

められるなど多くの改善がありました。入試日程や合格通知の在り方については今後の検討課題として継続研究することになりました。

さらに、各支会からの情報に基づいて内容・表現の見直しを図った「調査書記入用大会名一覧表」を、高等学校長協会と連携を図り、ホームページ掲載で周知しました。

３　諸調査の実施と資料提供

進路動向調査を２回実施し、県内の高等学校の統廃合や定員など最新情報に留意しながら、正確な情報提供に努めてきました。また、「進路指導に関する調査」をGoogleフォームを活用して各支会の集約の負担軽減を図るなど、今後も進路指導に関する資料提供に努めます。

（進路指導部会長　千葉　英一）

● 生徒指導部会 ●

１　自己指導能力の育成と規範意識の向上

コロナ禍が続く中、校長がリーダーシップを発揮し、行事等の創意工夫を図り、自己存在感を与え、共感的な人間関係を育成する教育活動が展開されました。様々な問題行動についても、生徒指導の機能を生かして、規範意識を高める指導を実践しました。

２　生徒指導上の諸問題、その解決や未然防止

６月に「生徒指導上の諸問題に関する調査」を実施しました。５年間の経年変化に着目し、学校の対応や生徒の実態変化について数値化を図り、分析・考察することができました。

不登校は、昨年度の調査では、コロナによる臨時休業もあり減少しましたが、再び大幅な増加に転じています。引き続きＳＣやＳＳＷ、関係機関との連携が望まれます。いじめは、初期段階で積極的に認知しようとする姿勢が継続されています。また、「いじめ防止対策推進法」に基づいた対応が不可欠となっています。虐待は、約４分の１の学校から報告されており、どの学校でも起こる問題としてとらえる必要があります。反社会的行為では、粗暴行為や喫煙が増加しており、ＳＮＳを介した交友関係の拡大による家出、深夜徘徊などの不良行為も心配されます。ネット利用は、保護者の危機意識の差が大きく、ネット使用の環境管理が徹底できない家庭は、打開策が見いだせない状況にあります。生徒のスマホ所持率やネット使用時間は確実に増加しています。ネットやゲーム依存に関する相談機関と医療機関の整備、社会全体で構築する安全なネット環境等、子どもを守る対策を講じることは喫緊の課題です。

３　小学校及び高等学校、関係機関等との連携

小・中学校、高等学校の連携は年々強化され、学習者用タブレットやネットの利用等、今日的な課題に関して関係機関の協力を得ながら、地域と一体となった指導・協力体制が構築されています。

４　生徒手帳の編集、刊行

令和５年版「生徒手帳」は、アンケート調査を参考に、編集委員を中心として編集、刊行することができました。

（生徒指導部会長　中村　　徹）

● 広 報 部 会 ●

本年度も、「福島県中学校長会広報」を２回発行しました。ホームページの維持・管理とともに、要望活動等を記録し、本会及び関係団体等の活動状況や会員に役立つ情報などを提供しました。

【広報の主な編集内容】

１　第168号（７月１日発行）

○　会長就任の挨拶　渡部光毅会長
○　県中学校長会総会の概要及び組織
○　学校教育の今日的課題　藤田信一副会長
○　県中学校長会の活動と運営
○　各専門部活動の概要
○　第73回全日中ＷＥＢ総会報告
○　支会情報と特色ある経営
　伊達支会・松陽中学校
　石川支会・古殿中学校
　南会津支会・下郷中学校
　いわき支会・内郷第一中学校
○　新会員紹介及び新会員の声
○　随想　早川良一副会長

２　第169号（３月１日発行）

○　令和４年度を振り返って　渡部光毅会長
○　学校教育の今日的課題　芳賀俊幸副会長
○　令和４年度県中学校長会の歩みと成果
○　各専門部活動の概要
○　第73回全日中北海道（札幌）大会の報告
○　第72回東北地区中宮城大会の報告
○　第50回福島県研究協議会県北大会の報告
○　県小中学校合同理事会・中学校理事会報告
○　令和５年度県中学校長会主要行事予定
○　令和５年度全日中研究協議会大分大会概要
○　令和５年度東北地区中研究協議会福島大会概要
○　支会情報と特色ある経営
　福島支会・松陵中学校
　岩瀬支会・湯本中学校
　耶麻支会・西会津中学校
　双葉支会・富岡中学校
○　随想　阿部　央副会長

（広報部会長　井上　明浩）

第73回全日中研究協議会 北海道（札幌）大会の概要

全日中研究協議会が、10月19日㈬～21日㈮の３日間、北海道札幌市をホスト会場とし、オンライン形式での開催となりました。本県からは、渡部光毅会長をはじめ、事務局と各支会からの代表17名が参加しました。

＜主な日程と内容等＞

第１日　10月19日㈬
　全日中理事会　渡部光毅会長出席
第２日　10月20日㈭
　開会式・文部科学省説明・全体協議会・分科会
第３日　10月21日㈮
　アトラクション・全体会・記念講演・閉会式

急激な社会変化やグローバル化、急速に進む情報化や技術革新が進む中、私たちは新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成する人材育成こそが中学校教育の役割であることを確認しました。

＜まとめ＞

全国の校長先生方と研究題について協議することを通し、教育の到着点は同じでも、そこにたどり着く過程（実践）は様々でした。改めて、私たちが研究していくことの大切さを実感できる機会となりました。令和５年度は、大分大会となります。

第72回東北地区中研究協議会 宮城大会の概要

東北地区中研究協議会が６月24日㈮に宮城県仙台市で開催されました。本県からは渡部光毅会長を始め、事務局、発表支部の田村、次年度開催予定の北会津支部からなど13名が現地参加、他196名がオンラインでの参加となりました。

＜主な日程と内容＞

◇　６月24日㈮　午前
　・　開会式
　・　記念講演
　　「なまって　笑って　コミュニケーション」
　　六華亭　遊花　氏
　○　東北を中心に落語を演じる方で、古典落語を東北弁でアレンジした内容でした。特に学校現場でのコミュニケーションをネタにしたところは、笑いとともに考えさせられる内容でした。
◇　６月24日㈮　午後
　・　研究協議会（分科会）
　○　研究協議会は３つの分科会に会場参集者とオンライン参加者によるハイブリッド方式での協議となりました。本県では第Ⅲ分科会「よりよく生きようとする意思や能力を育む道徳教育の充実」の研究題のもと田村支会の榊原康夫都路中校長が提案者として発表を行いました。
　・　閉会式
　○　閉会式では次期開催県である本県の渡部光毅会長から代表あいさつが行われました。

第50回福島県研究協議会 県北大会の概要

第50回福島県中学校長会研究協議会県北大会は、令和４年10月７日㈮、伊達市立梁川中学校を会場として、現地参加者103名、Web参加者106名により開催されました。

今大会は何といってもZoomでのオンライン会議の準備が最大の課題でした。当初は実行委員だけでＩＣＴ機器の設置、Zoomの契約、オンライン会議への参加手順、送受信試験、トラブル対応などを行うつもりでした。当時の問題は実行委員のほとんどが「オンライン会議の何がたいへんなのかも分からない」状況にあったことでした。

実行委員会ではオンライン会議の担当は分科会会場係を予定していましたが、ＩＣＴ専門の担当者を置き、業者委託すべきとの声が上がり、実行委員会組織にＩＣＴ担当者を位置づけ、業者委託することに方針転換したのが７月26日でした。

方針が決まっても、予算を計上していません。会計担当者があれこれと知恵を出し、県校長会ともやり取りしながら、ようやく予算を捻出、委託契約までこぎつけました。大会当日には、伊達市教育委員会様のご協力もあり、市内のＩＣＴ支援員を配置していただけることも決まりました。

伊達支会を主幹とし、県北三支会で４年ぶりとなる今大会が無事開催できましたことは、県内各支会校長先生方のご理解とご協力の賜物です。大会実行委員会一同心より御礼申し上げます。

●小・中学校合同理事会報告●

年間を通して計４回の合同理事会を以下の日程・会場・内容で開催しました。

第１回　６月10日㈮　福島グリーンパレス
　・　令和４年度組織、各種調査について
　・　令和４年度人事の反省
　・　令和４年度要望活動、教育懇談　等
第２回　８月17日㈬　福島グリーンパレス
　・　行財政部調査報告
　・　各種団体との教育懇談会報告
　・　要望活動、教育懇談会　　等
第３回　12月１日㈭　パルセいいざか
　・　令和４年度要望活動の報告

・　令和５年度行財政調査
・　感謝状贈呈式・感謝会実施について
・　令和５年度行事予定　　等

第４回　２月20日(月)　福島グリーンパレス
・　退職役員感謝状贈呈式
・　令和５年度合同開会式、行事予定等

今年度の合同理事会では、すべて参集型により会を開催しました。しかし、合同理事会後に予定されていた県教育長、教育庁職員との懇談会や情報交換会は、すべて中止となりました。

●中学校理事会報告●

年間を通して計５回の理事会を以下の日程、会場で開催しました。

第１回　４月20日(水)　パルセいいざか
第２回　６月10日(金)　福島グリーンパレス
第３回　８月17日(水)　福島グリーンパレス
第４回　12月１日(木)　パルセいいざか
第５回　２月20日(月)　福島グリーンパレス

今年度の理事会はすべて参集型で会を進めることができました。そのためか休憩の間も含めて情報交換、各種課題の意見交換を十分に行うことができ、WEB開催では深まりにくい内容を補うことができました。

会議の内容としては、全日中、東北地区中における協議内容の報告、各専門部会からの進捗状況について、また各地区からの課題についての協議が行われました。毎回、時間をオーバーしてしまうほどの活発な意見交換となり、今年度は特に部活動の地域移行やICTの活用など、中体連や中教研の会長を交えて、今後の学校での対応についても意見交換を行いました。

令和５年度県中学校長会主要行事予定

〔県、東北地区中、全日中関係〕

月	日	県　関　係	東北地区中・全日中関係
4	12 19	合同事務局会① 総会・理事会①	
5	9 10 19 22 23 24 25 31	行財政部合同部会長会① 研究部会長会① 生徒指導部会長会① 進路指導部会長会① 合同事務局会②	全日中常任理事会① 全日中理事会① 全日中総会（～26）
6	2 9 29 30	合同理事会①、理事会②	東北地区中副会長会① 東北地区中理事会① 東北地区中福島大会
7	4 28	行財政部合同代表部会長会① ・広報第170号発行	全日中副会長会①
8	7 18	合同事務局会③ 合同理事会②、理事会③	
9		要望活動	
10	23 25 26	進路指導部会長会②	全日中常任理事会･理事会② 全日中大分大会（～27）
11	14 15 17 20	研究部会長会② 生徒指導部合同部会長会② 合同事務局会④	全日中副会長会②
12	1	合同理事会③、理事会④	
1	18 19 24 30	研究部代表部会長会① 進路指導部代表部会長会① 生徒指導部代表部会長会①	全日中常任理事会･理事会③(Web)
2	2 5 7 22	合同事務局会⑤ 行財政部合同部会長会② 合同理事会④、理事会⑤	東北地区中副会長会②､理事会②
3	15	・広報第171号発行 会計監査	

令和５年度全日中研究協議会大分大会概要

第74回全日本中学校長会研究協議会大分大会が以下のように、４年ぶりに参集型で開催される予定です。

１　期　日
◇　令和５年10月25日(水)～27日(金)
２　会　場
◇　大分県別府市　ビーコンプラザ　他
３　研究協議会主題
「新たな時代を切り拓き､よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」
４　主な内容
◇　第１日：10月25日(水)
・　全日中常任理事会、理事会
・　全体協議会運営委員会､分科会運営委員会
◇　第２日：10月26日(木)
・　開会式、文科省説明
・　全体協議会、研究協議（８分科会）
◇　第３日：10月27日(金)
・　全体会、記念講演、閉会式
※　講演者　工藤　三郎　氏
元NHKアナウンサー

令和５年度東北地区中研究協議会福島大会概要

第73回東北地区中学校長会研究協議会が本県の会津若松市で開催されます。

１　期　日
◇　令和５年６月30日(金)
２　会　場
◇　会津若松ワシントンホテル
３　大会主題
「新たな時代を切り拓き､よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」
４　主な内容
午前：開会行事、記念講演
午後：研究協議会（３分科会)、閉会行事
※　講演者　高橋　洋平　氏
元文科省PTリーダー
元福島県教育庁教育総務課長
５　その他
会津若松への参集を約100名とし､それ以外はオンライン参加とするハイブリッド型の研究協議会を計画しています。

支会情報と特色ある経営

福　島

主体的で前向きな学校づくりを

福島支会長　目黒　　満
（福島市立信陵中学校）

福島支会では､｢密な情報共有と連携に根ざした主体的で前向きな学校経営の推進」を目指し、会員24名で活動しています。本支会は福島市と川俣町で構成され、特別支援学校２校を含む24校の生徒数は最小で８名、最大で735名と、各校が置かれている環境は多様を極めています。そんな中でも、校長一人ひとりが主体的かつ前向きな学校経営の推進に向け、時代の先を見据えた方向性の共有や難しい対応の在り方の検討など、年間７回の定例会を通じて、校長としての資質向上に取り組んでいます。

７月の定例会では研究協議会を実施し、研究の進捗状況を確認・検討して成果と課題を共有し、研究を深めています。12月の定例会では、例年、市町村教育委員会の教育長や指導・管理の要職を経験された先輩を講師としてお招きし、小・中学校長会協議会研修会を実施しています。校長として必要な幅広い識見や多角的な物の見方、今、求められている新たな視点など､一段高い場所からの景色を見ることができる貴重な機会となっています。

71名の会員からなる地区小・中学校長会協議会では、地区全体ならびに各中学校区で連携・協力を図り、義務教育９年間を連続的に捉えた教育活動の充実に努めています。コロナ前までは、歓迎会・送別会等も合同で行い、懇親を深めていたのですが、長引くコロナ禍により復活が見通せないことが残念でなりません。

また、今年度は、伊達・安達支会と連携し、県北ブロック中学校長会・高等学校長会協議会研修会を３年ぶりに復活させ、県北ブロックの中高の連携を深めることができました。県北地区の高校再編に向けた最新の情報や、新設された特別支援学校の様子等を共有し、理解を深める貴重な時間となりました。

今後もWithコロナでの研修の在り方を工夫し、さらに充実した活動を通して、校長一人ひとりの資質向上を図っていきたいと考えます。

《学校紹介》

避難訓練等を自ら考え判断できる実践的な指導の場へ

福島市立松陵中学校

本校は、令和７年度に義務教育学校となります。新たな学校の柱として「将来役立つ、キャリア形成に向けての生き抜く力の育成」｢地域との繋がりを生かした探究活動」等を検討しています。また、震災・原発事故から12年。生徒一人一人が自ら考え判断できる力を身に付けるフェーズへの移行が必要と捉えています。

そこで、これまでの教訓を生かし、教科の学びの体系化や、学んだ内容を実践的な判断・行動に繋ぐ避難訓練等について見直しを図ります。**「災害から主体的に身を守ることができる資質能力の育成」**を目標に、目指す生徒像を以下のとおり設定し、新たな実践に取り組んでいきます。

> 災害時において、科学的な見方や考え方を根拠に、自ら思考判断し行動できる生徒

１　教科を中心とした実践

自然災害・事故災害に関する事例の共有と、災害発生のメカニズム等の科学的理解を図ります。（理科・社会科等）さらに自然災害の危険性や安全・安心な社会づくりの意義等を理解し、安全な生活のために必要な知識や技能の習得に取り組みます。（保健体育等）

２　学級活動や道徳、総合的な学習の時間での実践

１での学びを３の実践的場面で活用するための心構えや考え方を身に付けます。危険下での適切な判断力や主体的に行動する態度の育成に向け、自助・共助・公助の視点からの実践を進めます。（学級活動）災害時に特に課題となる人との関係性の構築に繋がる実践に取り組みます。（道徳）

３　避難訓練等における、自ら考え判断できる力を試すための実践

避難訓練には、従来の目的に加え自ら考え判断する場面を取り入れます。机上訓練も含めゲーム的要素の導入等、新たな提案をし、従来の火事・地震に加え、火山・原子力災害も想定し､情報伝達や引渡し等の要素も取り入れます。

次年度は試行的な部分も多いため、精度を上げるよりまずは実践に重きを置き、多くのご指導によりバージョンアップして義務教育学校の取組に繋げていきます。　（校長　阿部　洋己）

岩　瀬

岩瀬支会の活動

岩瀬支会長　八木沼孝夫
（須賀川市立第一中学校）

岩瀬支会は、須賀川市10校、鏡石町１校、天栄村２校の中学校・義務教育学校長の13名で組織しております。今年度は転入１名を新しいメンバーとして迎えてスタートしました。

「岩瀬は一枚岩」を合い言葉に、小学校長会とも連携を図りながら、校長職としての在り方を模索し、各学校の学校経営の充実や教育課題の解決を目指して、諸会議や事業を実施してきました。

１　岩瀬地区小・中学校長協議会（５回）

全体会で各専門部会活動と情報交換、服務倫理委員会を行った後、小中学校別会議での協議を実施しています。

２　学校経営研究会（２回）

特色ある会場を選定しながら、教育講演会を県中教育事務所長様と地元企業等の方々に講師にお願いしています。その他先輩校長の体験発表を年度末退職予定の校長にお願いし好評をいただいております。

３　退職校長会・現職校長会研修会

昨年度に引き続き、地元弁護士から危機管理対応・クレーム対応について講話をいただき研修を深めました。例年ならば懇親会も行っていましたが、この３年間は実施できておりません。

４　中高連絡協議会（２回）

６月と11月に、岩瀬地区の県立高校及び特別支援学校と中学校の校長の他、生徒指導主事や進路指導主事が情報交換を行っています。今年は３年ぶりに中高校長懇談会を実施しました。

５「岩瀬地区教職教養講座」

校長・教頭昇任考査対策として、地教委指導主事や校長が講師となり、夏季休業中に実施するとともに、面接指導に対しても地教委と校長会で実施しています。

来年度も厳しい状況が続くと思われますが、教育活動充実のため、未来を担う子どもたちのため、校長会の活動をより充実・発展できるように邁進してまいりたいと思います。

《学校紹介》

思いを繋ぐ

天栄村立湯本中学校

湯本中学校は令和５年３月に76年の歴史に幕を閉じます。地域に親しまれ、地域と共に歩んできた閉校の年に、地域の人々や最後の生徒の思いを後世に繋ぐために、以下のような取組を行っています。

⑴　最後の生徒の＜思いを繋ぐ＞取組

本校では、昨年度より総合的な学習の時間を利用して、地域の特色や人材を生かし、将来に渡って「ふるさと湯本」に残り続けるものを創出するために、アントレプレナーシップ（起業家精神）教育を推進しています。その中で、地元の農家・製造業・販売業・広告業など多岐に及ぶ関係者と密に関わりながら、地元に密着した商品（ＮＥＷヤーコンクッキー、天菜二岐山パンなど）を開発し、実際に店頭販売などを行っています。また、閉校後もアントレ学習での取組を生かしていけるように、関係者の皆さんと成果や課題などを共有することで、最後の生徒の「思いを繋ぐ」ように努めているところです。

⑵　地域の人々の＜思いを繋ぐ＞取組

令和４年５月に閉校記念事業実行委員会を立ち上げ、閉校記念事業を通して地域の人々の「思いを繋ぐ」ための事業に取り組んでいます。昨年の８月と11月の２回に渡り、本校同窓生と前教職員を対象に「湯本中学校の思い出を語る会」を開催しました。両日ともに、大勢の参加者が思い思いに懐かしい思い出話に花を咲かせる光景が会場の至るところで見受けられました。まさに、地域の人々や関係者の「思いを繋ぐ」にふさわしい機会となりました。今後も閉校までの残された期間で、湯本中学校に関わる人の思いを丁寧に繋いでいきます。

思い出を語る会での参加者による校歌斉唱

（校長　渡部　幹雄）

耶　麻

耶麻支会の活動

耶麻支会長　押部　秀隆
（喜多方市立第二中学校）

耶麻支会は、喜多方市、西会津町、北塩原村の計10校で組織されています。他の支会と同様に本支会でも生徒数が減少しており、喜多方市では小中学校適正規模適正配置審議会の説明会が、保護者や地域の人を対象に実施されています。また今年度は、３年ぶりに現職・退職校長会教育懇談会の実施に向けて準備を進めていましたが、最終打合せの時期にコロナウイルス感染拡大のため、やむなく中止となり大変残念でした。

その他の耶麻支会の活動を紹介いたします。

１　「県中学校教育研究協議会会津大会」が10月に開催され、コロナ禍の下ではありましたが、北会津・耶麻・両沼・南会津の４支部が協力して、各教科分科会をオンラインで開催しました。耶麻支部では３教科（数学、理科、保健体育）を担当して大変お世話になりました。

２　小学校20校と中学校10校が連携し「耶麻地区小中学校長会連絡協議会」を組織して一体となって活動しています。

10月には、会津教育事務所の西牧泰彦所長による「第７次福島県総合教育計画＜学びの改革の推進に向けて＞」と題して、本会への期待について示唆に富む講話を頂きました。

３　県中学校長会研究協議会県北大会では、第２分科会（学習指導）「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、校長としての関わりについて研究初年度でしたが、各校のさまざまな実践の一端を発表させて頂きました。校長の学校経営の立場の視点から改めて見つめ直す良い機会となりました。

最後になりますが、令和５年度には、東北地区中学校長会研究協議会福島大会が６月に会津で開催されます。現在、開催に向けて耶麻支会だけでなく４支会が「会津はひとつ」の精神で一致団結して準備を進めているところです。

《学校紹介》

不易と流行を融合させた教育

西会津町立西会津中学校

西会津町は、変化の激しい時代を生きていく子どもたちのために、不易と流行を融合させた教育に取り組んでいます。本校での「不易」につながる取組の大きな柱は、生徒の自律を目指したアントレプレナーシップ学習とすべての教科の学びの基盤となる読解力の向上です。

アントレプレナーシップ学習では、武蔵野大学の教授や学生、さらには地域おこし協力隊、地元の社団法人等に協力いただき、町の活性化に向けたアイディアをもとに町づくりに参加するという課題探究型学習を行っています。様々な人とつながりながら学ぶことで、生徒たちはこれからの社会に求められる「課題解決能力」や「コミュニケーション能力」を身に付けていきます。自ら考え行動し、課題を解決していくことが、生徒の自律につながる取組となっています。

また、読解力の向上では、リーディングスキルを意識した授業改善に取り組んでいます。正しく読む力をつけることが、生徒が自ら学んでいく力につながると考え、文章を解像度高く読めるようにすることを目指して、各教科での実践を重ねています。

そして、それらの教育活動にＩＣＴをフルに活用する「流行」を融合させ、学びの効果・効率を高めています。タブレットを使ったオンラインでの学び、授業支援アプリを使った協働的な学びなど、町の全面的な支援をいただきながら、様々な場面で新しい学びを取り入れています。

子どもたちがこれからの社会を生きる力を身に付け、自律していくという「不易」を大切に、新しい学びの「流行」を効果的に活用しながら、今後も不易と流行を融合させた教育に取り組んでいきます。

武蔵野大学とのオンラインでのアントレプレナーシップ学習の様子

（校長　佐藤　崇史）

双　葉

双葉支会の活動

双葉支会長　早川　良一
（楢葉町立楢葉中学校）

皆様には、震災及び原発事故で被害を受けた多くの学校へ継続的なご支援を賜り、衷心より感謝申し上げます。震災からまもなく12年を迎える今でも、双葉町はいわき市、大熊町は会津若松市で、仮設校舎や借用施設で教育活動を行っています。義務教育学校となった大熊町立学び舎ゆめの森は新校舎を建設中で、今年度末をもって大熊町に帰還する予定です。統廃合が相次ぎ、町村に１つの中学校となり、双葉支会は現在、８町村９校（県立ふたば未来学園中・高等学校を含む）、９名の会員で組織され、「双葉は１つ」と強い結束のもと、相互に情報共有・連携を図り、教育の復興・推進を目指して活動しています。

双葉支会の主な活動は、中学校独自で行う年４回の研修会、小・中学校長連絡協議会研修会が年２回、相馬支会と相双高等学校長会と連携した相双地区中高連絡協議会を年１回開催して、情報交換や地区の課題解決に向けた研修を深めています。また、中学校教育研究会は平成30年度より段階的に再開してきましたが、次年度より相馬支部と合併し、相双支部として再出発する運びとなりました。

コロナ禍も３年が経過し、徐々に研修会や各種大会等も対策を講じながら対面やオンラインを活用した活動を通して、以前のような活気ある取組を模索しているところです。

10月７日に行われた福島県中学校長会研究協議大会県北大会では、第１分科会で双葉中学校長が発表し、皆様から多くのご意見やご助言を賜りましたこと、感謝申しあげます。

復興は確実に前進しておりますが、依然として生徒数は少なく心身の支援も継続して行わなければなりません。だからこそ校長会での研修は、双葉を知り双葉の子どもを育てる上で必要不可欠なものと考えます。

今後も変わらぬご支援ご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

《学校紹介》

コミュニティの拠点となる学校をめざし

富岡町立富岡中学校

東日本大震災及び原発事故から12年が経過しようとしています。今年度より小中併設型連携校として富岡小学校・富岡中学校が新たな一歩を踏み出しました。統合１年目として、震災前の４校の伝統と震災以降つないできた避難先の三春校の絆を受け継いでのスタートです。

まだまだ、家庭における諸問題等、震災後の心のケアや個別の支援が必要な生徒が多い現状の中ではありますが、「コミュニティの拠点となる学校」をめざし、町が掲げる『多世代教育の充実』、『深い共感から始まる教育』、『少人数のよさを生かした教育活動』、『富岡ならではの特色ある教育活動』、４つの施策を柱として、学校・地域が一体となって教育活動を進めています。

さまざまな活動における地域人材の活用、ＩＣＴ機器の活用によるオンライン授業、小中連携を生かした行事や活動、計画的・系統的な防災・放射線教育、９年間を見通したキャリア教育、健康教育、伝統文化の継承等、生徒には町を支える一員であるという自覚と責任を育て、地域の方々には子どもたちとふれあいエネルギーを、そんなWIN WINの関係を築く場を広げています。

「夢を見つけ、その実現に向けて着実に前進する」を合い言葉に、ふるさとを思い、ふるさとに貢献できる子どもたちを育てていくことを第一の使命として、個々の指導力の向上を図るとともに、チーム富岡、全力で教育活動に邁進していきたいと思います。

今後もご指導よろしくお願いいたします。

「伝統文化の継承」地域の方の指導による太鼓練習

（校長　武内　雅之）

随想

「出会いに感謝」

福島県中学校長会副会長
阿　部　　央
（国見町立県北中学校）

平成22年４月が私の教員人生の分岐点でした。富岡町に自宅を新築して４年、妻と小１、中１の息子２人を残しての単身生活が始まりました。

新任教頭として広野中学校でお世話になり３年目、異動は覚悟していましたが県教育庁への異動など頭の片隅にもありませんでした。教育行政での勤務経験がない私にとっては、まるで外国に来たかのようでした。大げさ過ぎるだろうと言われるかもしれませんが、私にとっては別世界でした。

「Ａ決裁」、「Ｂ決裁」、「事故止届」、「主幹レク」、「課長レク」、「局長報告」、「課長報告」？？？。聞いたことのない用語ばかり。教頭職も電話対応は多かったですが、管理主事という職も同じでした。違うのは相手が県内各地区の教育事務所の管理主事の方々であること。電話はとにかく緊張しました。しかし、職の立場で丁寧に対応していただきました。右も左も分からずにオロオロしていた１年目が間もなく終わろうとしていた平成23年３月11日（金）、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故が発生しました。

停電で真っ暗な中、何とか自宅にたどり着いて間もなく、原発が危険な状況になり避難指示が出されました。家族とともに楢葉町の道の駅の駐車場で３日間ほど過ごし、福島市の県公舎に戻りました。しばらくの間、職場の先輩方とも連絡が取れずご心配をおかけしたのを思い出します。

地震被害のため県庁西庁舎９階から自治会館８階に執務室が移動となりました。余震が続く中、仕事を進めるための帳簿等を西庁舎の内階段を恐る恐る上って取りに行く日々が続きました。原発事故による避難で本県の児童生徒数は激減し、学級数をもとに算出する教職員定数も激減することになりました。しばらくは福島県全体で過員となる教職員数を算出する仕事に取り組んでいました。激減する教職員定数だけで甚大な被害を乗り越えていくのは不可能であることから、国も柔軟な対応をしてくれることになりました。これが復興推進加配（当時の震災加配）の始まりだったと思います。必要な加配数の算出に取り組む日々が続きました。定数の主担当をされていた先輩の教えを受けながら、無我夢中でパソコンと資料に向かう日が続きました。平成23年４月の人事異動は凍結となり８月人事となりました。主担当されていた先輩も異動となりました。８月以降は次年度の教職員定数の算出と震災加配要求のための根拠資料作成に追われました。８月から一緒に定数を担当していただいた先輩をはじめ、学校経営支援課の先輩方に助けていただきながら、何とか乗り切ることができました。

平成24年４月、広野中学校の校長としていわき市立湯本第二中学校に着任しました。広野中学校は湯本第二中学校の教室の一部を間借りして学校を再開していました。当時の校長先生、教頭先生には本当にお世話になりました。避難・転校を繰り返して戻ってきた生徒と保護者の表情を注視し、微妙な心を読み取りながら学校経営にあたりました。

平成26年４月、相双教育事務所管理主事として再び教育行政の仕事に携わることになり、４年間勤務させていただきました。お仕えした３人の所長には、「情報は取りに出向くもの」という県教育庁出先機関職員としての心構えを教えていただきました。

その後、県南、県北２つの教育事務所勤務を経て、令和２年４月から国見町立県北中学校にお世話になっています。国見町教育委員会の皆様のお力添えをいただきながら、空回りばかりですが自分なりに努力をしています。マスク越しの表情から子どもたちの心を読み取ることは難しいですが、学校を歩き回り、時に生徒と一緒に授業に参加しています。子どもたちにとっては風格も威厳もない校長としての姿を楽しんでいます。

県内各地区の先生方との出会いが私の38年間の教員人生を豊かにしてくださいました。多くの方々との出会いに感謝申し上げます。ありがとうございました。

（一財）福島県教育会館　事業ご案内
福島県教育会館の下記事業につきまして、ご理解ご支援をよろしくお願い申し上げます。
●夏休みの友　●福島県立高校入試問題集　●福島県書きぞめ展　●教育関係者名簿　◆貸し会議室（教育関係者は半額）
福島市上浜町10-38　office@kyouikukaikan.jp　TEL 024-523-0206　FAX 024-523-0208
福島県中学校長会ホームページはこちらのQRコードから

■発行　福島県中学校長会　〒960-8107 福島市浜田町４番地16号 富士ビル２Ｆ　電話 024(534)5320
■編集　井上明浩・川名健一・齋藤　直　■印刷　㈲吾妻印刷